



# 野村万作 新狂言の会

闇に浮かび上がる能舞台、  
水面に揺らめく二本のかがり火、  
野村万作・萬斎親子が舞い謡う―。

演目 小舞「八島後(やしまのち)」

狂言「孫 智まごむこ」

狂言「鈍太郎どんたろう」

出演 野村万作 野村萬斎 石田幸雄 他

2014. 10/8 **水**

開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター

**コラーレ** 〈野外能舞台〉

全席指定 一般5,000円 高校生以下1,000円  
障がい者手帳をお持ちの方4,000円

■当日は18時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただきます。  
チケットはコラーレだけで発売いたします。

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。公演中、未就学児を対象とした「一時保育(無料)」を実施しています。公演2日前の18:00までにお申し込みください。
- 雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。天候によっては、会場がカーターホールに変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

主催／公益財団法人黒部市国際文化センター 協賛／チューリップテレビ 後援／黒部市 黒部市教育委員会 北日本新聞社

●お問い合わせ●

**コラーレ** 〒938-0031 黒部市三日市20番地 TEL.0765-57-1201 FAX.0765-57-1207

info@colare.jp http://www.colare.jp/ 開館時間:9:00~22:30(土曜~23:00) / 毎週水曜日休館



## 秋の風情を感じながら

昨年より十月の開催となりました。秋の風情が感じられるコラーレも、また別の魅力にあふれ、新たな気持ちで臨んでおります。

今回は、「孫髯」「鈍太郎」という二演目を選びました。「孫髯」は、お祖父さんがシテの珍しい髯入り狂言です。狂言には年齢にふさわしい演目がありますが、私もこのような演目を演じる年になりました。誇張された老人の演技には、狂言らしいほほえましさがあります。「鈍太郎」は、一転してなんとも勝手な男のお話です。

趣の異なる二つの演目から、現代につながる狂言の幅広さをご堪能頂ければと存じます。

## 野村万作

野村万作

狂言師



一九三二年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章など、多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に「月に憑かれたヒコ」「子午線の祀り」「秋江」「法螺待」などがある。著書に「太郎冠者を生きる」（白水社）、「狂言三人三様・野村万作の巻」（岩波書店）がある。

野村萬斎

狂言師



一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞、二〇一二年芸術祭優秀賞等を受賞。著書に「萬斎でござる」「MANSAI 解体新書」（朝日新聞社）、「狂言三人三様・野村萬斎の巻」（岩波書店）等がある。世田谷ハブリックシアター芸術監督。

石田幸雄

狂言師



一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。また新しい試みの舞台にも意欲的な発表が多い。普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。日本大学芸術学部、学習院大学非常勤講師。「雙ノ会」で二〇〇六年度芸術祭大賞、二〇一一年観世寿夫記念法政大学学業賞を受賞。

## 薪狂言 番組

解説 野村萬斎

火入れの儀

小舞

八島 後 やしまのち

岡 聡史

地謡

中村修一  
飯田 豪

狂言

孫 髯

まごむこ

今日のはめでたい髯入り（結婚後初めて髯が妻の実家へ挨拶に行くこと）の日。舅と太郎冠者は、日頃何かと口うるさい祖父を外出させ、そのすきに祝儀を済ませてしまおうと策を練る。それを聞いた祖父は怒り出し、結局同席することになる。いよいよ髯がやってくる、大張りきりの祖父は、舅そっこのけで盃事に口を出し……。祖父まで登場する珍しい髯入り狂言です。華やかでめでたい雰囲気の中で、デフォルメされた老人の振舞いが効果的に描かれています。

祖父 野村万作

舅 石田幸雄

太郎冠者 月崎晴夫

髯 高野和憲

後見 中村修一

狂言

鈍 太郎

どんたろう

三年ぶりに西国から帰京した鈍太郎。早速妻と女を訪ねるが、久しく音信すらなかつたため、二人とも本物の鈍太郎と信じない。落胆した鈍太郎は、出家してひとり修行の旅に出ることを決心する。ところが、後から真実を知った妻と女が、あわてて鈍太郎に出家を思いとどまらう頼むと、鈍太郎は都合のいい提案をし始めて……。二人の女の手に得意げに乗って浮かれる鈍太郎は「男の理想」？ 中世の生活の様子が垣間見られる、古作の狂言です。

鈍 太郎

野村萬斎

妻 深田博治  
上京の女 内藤 連

後見 岡 聡史